



地域コミュニティにとって必要な場とは

地域に住む一人ひとりにとって、地域社会とつながるキッカケはいろいろある。PTAや自治会の会合を通じてという場合もあるし、共通したスポーツや趣味の活動という場合もある。しかし、高齢化が進み、生活圏の範囲は狭まっている。

生活圏の範囲が広がったころには進修館やぐるる宮代がこうしたことのキッカケとなる場だった。しかし今、生活圏は狭まっている。その狭まった範囲に、人々が集まる場が必要である。そのための施設として代表的なのは、各集落、各住宅地ごとにある集会所や自治会館である。地域管理となっているこれらの施設では、頻度の差はあるが、さまざまな活動が行われている。地域の皆さんが企画し実施している催しや会合などに使われている。

しかし、地域社会の中で、コミュニティを醸成する場となっている集会所や自治会館は、「目的があつて行く場所」ではあるが、「目的がない人も行ける開放的な場所」とはなっていないし、「やりたいことをサポートする機能」もない。

1.目的があつて行く場所

- (大きな目的) 防災や防犯など地域にとっての課題
- (中ぐらいの目的) 時々のイベントや交流事業
- (小ぐらいの目的) 仲間とのちょっとした集まり

2.目的がない人も行ける開放的な空間

- 図書や新聞を閲覧する場所
- 庭のベンチで季節ごとの花や木を鑑賞するだけの場

3.やりたいことをサポートする機能

- 部屋を貸すだけでなくやりたいことをサポートできる機能
- 相談すべき相手や、つながるべき相手を探してくれる
- 団体の活動について一緒に考えてくれる

現在の集会所や自治会館は「目的がない人が立ち入らない場所」になりがちである。今、町ではこうしたことのないように、地域交流サロンや地区敬老会を実施している。その地域に住む皆さんが集会所や自治会館の催しに参加することにより、交流が生まれることを意図しているからである。しかし、本質的には、「目的がない人も行ける開放的な場所」、「やりたいことをサポートする機能」とはなっていない。建物の大きさや間取り、貸し出しの方法などが、こうしたことを意識した建物ではないからである。このことは、町にある3つの公民館にとっても同じことが当てはまる。宮代町にある集会所や自治会館、公民館がオープンでない印象を与えるのはこうした理由によるものと思われる。

DB名 公共施設マネジメント計画 令和編